室戸市教育委員会

令和５年度　自己点検・評価報告書

～ふるさとを愛し、心豊かでたくましく 生きる力を育む教育～





令和６年７月



１．自己点検・評価

評価ランク　　Ａ：優れた取り組みがなされており、成果が十分上がっている
Ｂ：問題なく取り組んでおり、一定の成果が上がっている
Ｃ：取り組んでいるが、さらなる改善が必要である
Ｄ：取り組みが不十分であり、一層の改善・努力が求められる

大項目	中　項　目	小　項　目	実績及自己評価	
１　教育委員会の活動	（１）教育委員会の会議	①開催状況	○定例会・・・１２回開催（毎月） ○臨時会・・・　２回開催（１１月・３月）	B
		②運営上の工夫	○保育所及び学校適正規模・適正配置について、事前のスケジュール周知及び関連資料の配付により、計画的に審議が行えた。	
	（２）総合教育会議	①開催状況	○６月・１月の２回開催した。	B
		②協議内容	○教育政策（室戸市教育振興基本計画・令和５年度事業実施計画）について協議するとともに、保育所及び学校適正規模・適正配置実施計画について協議をおこなった。	
	（３）教育委員会と事務局との連携	教育委員会と事務局との連携	○定例会で事業報告を行うとともに、教育委員会主催の行事への参加を依頼した。	B
	（４）教育委員の自己研鑽	教育委員の自己研鑽	○高知県市町村教育委員会連合会及び安芸郡市町村教育委員会連絡協議会主催の合同研修へ参加している。 ○一方、市教育委員会独自の研修が行えていないため、視察研修も含め、研修機会を増やし、委員の研鑽の場の確保に努めていく必要がある。	C
	（５）学校、教育施設に対する支援や指導・施設の整備	①学校等への訪問・支援	○市内全小中学校を訪問し、指導助言を行うとともに実態把握に努めた。	B
		②所管施設の訪問・支援	○令和５年度は、保育所及び学校適正規模・適正配置実施計画の審議にあたり、学校訪問を重点的に行ったことから、学校以外の施設については、訪問は行っていない。	

大項目	中　項　目	小　項　目	実　績　及　自　己　評　価	
2 教育委員会が管理・執行する事務	（1）教育行政の基本的な方針に関すること		○年度当初に「第３期教育振興基本計画の令和５年度実施計画」を策定し、計画に沿った事業に取り組んだ。 ○「令和６年度教育行政方針」を策定し、教育振興基本計画の事業実施の方針を示した。	B
	（2）教育委員会規則等の制定又は改廃に関すること		○（制定） 室戸市立小中学校業務改善検討委員会設置要綱　他５件 ○（一部改正） 室戸市教育支援委員会規則　他４件 ○（廃止） 学びのかけ橋づくり推進事業費補助金交付要綱　他２件 ○主に、学校における業務改善及び文書管理推進のための要綱、規程の制定をおこなった。	B
	（3）学校その他の教育機関の設置及び廃止に関すること		○室戸市保育所及び学校適正規模・適正配置に係る継続した審議を行った。（４回） ○室戸市保育所及び学校適正規模・適正配置実施計画を策定した。	A
	（4）教育機関の職員の任命その他の人事に関すること		○県費負担教職員、教育委員会事務局の人事異動及び教育委員会事務局職員の処分の決定、並びに社会教育委員等の委嘱及び任命を行った。	B
	（5）教育予算等議会の議決を経るべき議案について意見の申し出に関すること		○補正予算及び令和６年度当初予算の審議及び承認を行った。 ○室戸市学校用地候補地選定委員会設置条例、室戸市統合中学校あり方検討委員会設置条例等の承認を行った。	B
	（6）事務の適正執行に関すること		○学校保健安全法に基づく就学時健康診断に係る診断票の紛失事案が発生し、個人情報を含む情報管理体制に課題が見られた。全職員に注意喚起を行うとともに、個人情報等の重要書類について、受渡日、発送者、受取者を記録に残す仕組みづくりを行った。	D

大項目	中項目		小項目	実績及び自己評価	
3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務	(1)学校教育に関すること	①学校教育内容の充実	①児童生徒の学力の向上	○学力調査等の結果分析に基づいた授業改善を進めるため、研究主任会を５回開催し、校内研修のマネジメントや組織としての取組の充実について協議したり、指導主事が学校訪問により各校の状況を把握しながら取組を進めたりしたことにより、全国学力・学習状況調査では、小学校は国語（+2.8）・算数（+3.5）で全国平均を上回った。中学校では国語（−0.8）・数学（＋１）・英語（−0.6）で、昨年度より改善が見られた。しかし、12月の高知県学力定着状況調査は、中１が全教科で県平均を上回ったが、小４・５の全教科、中２の数学、社会で県平均を下回る結果となり、課題が残った。	C
			②心の教育	○不登校の児童生徒数は、小学校５名→３名、中学校16名→12名と令和４年度より減少している。そのうち新規不登校は、小学校は１名で改善が見られるが、中学校は５名で組織的な取組の継続が必要である。	
			③健康・体力の向上	○「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果の体力合計点は、全国比で、小学校で男子（−1.1）・女子（−2.1）、中学校では男子（−1.8）・女子（−4.6）で全国値を下回った。重点校の取組を市全体に周知し、「こうちの子ども体力・運動能力向上プログラム」を活用した取組の推進を図ることで、改善できるようにする。	
			④校種間連携教育の推進	○室戸市アクションプランにおける中学校区での保小中連携事業により、生活リズム改善を意識した取組や、乗り入れ授業・リモート交流等の授業交流が実施された。	
			⑤教職員の資質・指導力向上	○学級経営について実践に生かせるよう８月に立正大学の鹿嶋真弓教授による教育講演会を実施した。	
		②家庭・学校・地域社会の連携教育の推進	①ふるさと教育の推進	○社会科副読本「むろとのくらし」の活用や総合的な学習の時間を中心としたジオパーク学習に取り組むことにより、地域への愛着、地域に貢献したいと思う意識・意欲へとつなげられている。	B
			②家庭での基本的な生活習慣及び学習習慣の定着化	○「早寝・早起き・朝ごはん」の実施状況は、小学校では全国平均を上回っていたが、中学校では「早寝」「朝ごはん」に課題が見られた。また、家庭学習に関する調査では、土日に全く勉強をしない児童生徒が小６で14.3%、中３で４%いることが分かった。中学校区単位で、検証・取組を行い、授業と家庭学習のシームレス化を図りたい。	

大項目	中項目		小項目	実績及び自己評価	
3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務	(1)学校教育に関すること		③地域学校協働本部の活動内容の充実、コミュニティスクール設置への取組	○令和５年度は、新たに、吉良川地区、羽根地区、室戸地区で、学校運営協議会を立ち上げ、既設置済みの佐喜浜地区を含め全地区で立ち上げることができた。	A
		③教育環境の充実と施設整備	学校施設の教育環境の充実	○非構造部材耐震化事業を佐喜浜小・中学校で実施した。 ○ＬＥＤ設置工事を吉良川小学校、羽根小学校で実施した。	B
		④教育研究所等各事業の充実	①各校の学力向上対策への支援	○外国語の意識調査結果の分析から分かった課題に対して、授業づくり講座や研究発表会に参加して得た情報から、効果的な授業について、校長会や外国語担当者会で提案できた。	B
			②不登校児童生徒への適応指導に関する研究や支援	○教育研究所では、毎月の３日欠席調べで各校の長期欠席児童生徒の状況を把握し、学校訪問や支援会を通して、個別支援の充実や学校の取組の充実につなげられた。 ○教育支援センターの運営については、タブレットを活用した授業配信による学力保障の取組や学校と情報を共有しながら、学校復帰についての取組を実施した。 ○特別支援教育として、教育研究所主催による教職員や支援員を対象とした研修を開催した。和歌山大学の米澤好史教授、療育福祉センターの野々宮京子チーフを招聘しての「児童生徒理解を深める研修会」、高知大学の是永かな子教授を招聘しての「発達障害研修会」を実施することができた。	

大項目	中項目		小項目	実績及び自己評価	
3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務	(3)生涯学習に関すること	①生涯学習の充実	①学習機会の提供	○公民館において世代間交流事業やシルバーセミナー、文化祭などを行った。また、8月には、まちづくり推進課と共催のサマーセミナーを実施し、羽根公民館では、3月にミニサマーセミナーを実施し、生涯学習活動を通じて地域住民の文化の向上につなげた。 ○文化芸術フェスティバル開始により、室戸市活性化事業を実施し、地域住民の教養を高めた。	B
			②人権教育事業の推進	○人権教育推進講座及び人権週間記念講演会の開催、市人権教育研究協議会等との連携により、人権教育の普及・拡大に取り組んだ。	
			③図書館サービスの充実	○子ども読書活動推進計画を策定することにより、子ども読書活動についての現状と課題が明確になり、毎年目標への点検を行い読書活動を充実させる良い機会となった。 ○図書館システムや図書館のネットワークを駆使し、利用しやすい図書館づくりに努めた。 ○毎月1回成人対象の読書会を開催し、読書意欲の向上を図った。 ○巡回図書、ブックスタート、読み聞かせなど未就学児や小学校低学年に読書に慣れ親しむ機会が充実した。また、乳幼児健診時読み聞かせ指導を行った。	
		②生涯スポーツの充実	①市民スポーツの推進	○マラソン大会、駅伝大会、少年野球春季選手権大会等のスポーツ大会を開催できた。	C
			②地域スポーツ団体との連携	○体育会、スポーツ少年団、スポーツクラブ等との連携を図るとともに、参加者への実技指導を行い、競技力の向上につなげた。	
			③各種スポーツ合宿の推進	○県外の大学及び高等学校等に対して合宿誘致を行い、韓国ラオン高校、リトルリーグチーム1チームのほか、国内7校の高等学校と龍谷大学等3校の大学を迎えた。 ○市内宿泊施設の閉鎖により、誘致に向けた宿泊施設の確保が今後の大きな課題となっている。	

大項目	中項目		小項目	実績及び自己評価	
3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務	(3) 生涯学習に関すること	③伝統文化の活用・継承	①吉良川町並みの保存・活用	○国・県の補助事業を活用し、重要伝統的建造物群保存地区内の建築物の修復を行い、文化財の維持、保存を推進した。また、保存会と連携を図り、ひな祭り行事を開催し、市民への啓発に努めた。 ○１１月には、全国伝建協中国・四国ブロック町並み保存講演会を実施し、吉良川の町並み案内や吉良川小学校の児童と取り組んだ企画の発表を行った。	B
			②地域文化・伝統芸能の保存・活用	○国選択の文化財シットロト踊りの傘修繕と県指定文化財の土佐の獅子踊り（中川内獅子舞）の獅子頭修繕、最御崎寺の看板の修理を行った。 ○市指定文化財の「鯨舟の唄」の映像保存を行い、地域住民の伝統芸能の保存や活用に対する意識を高めた。 ○「室戸市の文化財」の見直しを行い、冊子の印刷を行い、文化財保護の啓発活動に取り組んだ。	
			③文化芸術活動の推進	○室戸市美術展覧会を開催し、創作意欲の向上や芸術・文化活動の振興を図るとともに、児童・生徒の作品制作を通じて美術教育の推進を図った。また、本年度より児童の部と一般の部を同一開催とした。	
		④青少年の健全育成	①少年育成センターの充実	○警察や学校等関係機関と連携を図り、放課後市内巡回や夜間特別補導の実施及び薬物乱用防止教室、ネット・スマホ安全利用教室等を開催し、青少年健全育成に取り組んだ。	B
			②放課後対策事業の推進	○放課後の子どもたちの安全安心な居場所づくりや仲間づくりのために放課後児童クラブ及び放課後子ども教室を開催した。また、指導員に対して特別支援教育の研修を行った。	

２．自己点検・評価に対する意見（学識経験者の知見）

１教育委員会の活動

定例会は計画的に、臨時会も必要に応じて開催できています。特に、令和５年度は保育所及び学校適正規模・適正配置の方向性の決定が必要となりました。このため、定例会でも４回協議を行うなど、計画的に丁寧な議論をおこなってきたことは評価できます。
一方、市教育委員会独自の研修が行えていないため、視察研修も含め、委員の識見を深める研修機会を増やして下さい。

２教育委員会が管理・執行する事務

教育行政の基本的な方針や規則等の制定等に関する事務等については、概ね良好に処理されています。

保育所及び学校適正規模・適正配置については、今後の本市の教育のあり方に大きく関係するものであり、地域住民や保護者の方の関心も非常に高い重要な課題です。このことから、委員には、大きな責任と負担がかかる中、計画的で丁寧な議論を重ね、方向性が決定されたことは大いに評価できます。
今後においても、地域住民の声に真摯に耳を傾け、本市の教育行政の推進については「こども達のために」を第一に考えて、適切に進めて下さい。
また、個人情報を含む情報管理は、職員の意識付け、仕組みづくりなど再発防止策を徹底して下さい。

３教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務

（学校教育）

学力については、全国学力・学習状況調査において、小学校では国語、算数ともに、全国平均を上回っており、また、中学校では国語、数学、英語ともに、全国平均とほぼ同等の結果となっています。各学校が学力調査の結果等を踏まえ、校内研修や授業改善に組織的に取り組んできた成果であると評価します。
今後においても、指導主事による学校訪問や担当者会などにより、基礎学力の定着のため、授業改善の取り組みを進めて下さい。

不登校児童生徒への支援については、現状を把握のうえで、教育支援センター及び教育研究所など関係機関との連携を図りながら、不登校を生じさせない学校づくりに向けた取り組みを進めて下さい。

学校運営協議会について、令和５年度中に全中学校区において設置されたことは評価できます。今後は、学校と保護者、地域の方々との実効ある協議を深め、地域と一体となって、学校運営の改善や児童生徒の健全育成に取り組んで下さい。

（生涯学習）

生涯学習については、世代間交流事業やシルバーセミナー、文化祭などの継続的な取り組みに加え、サマーセミナーの新しい取組を実施したことは評価できます。今後とも地域住民の交流とともに、文化の向上に努めて下さい。

図書館サービスについては、令和５年度に策定した「子ども読書活動推進計画」に基づき、学校、地域との連携を図りながら、子どもの読書活動の推進に努めて下さい。また、引き続き図書館システムやネットワークを活用し、誰もが利用しやすい図書館づくりに取り組んで下さい。

生涯スポーツの充実については、健康の保持・増進やレクリエーションを目的に、引き続き内容の充実とともに、各種大会を実施して下さい。

スポーツ合宿誘致の課題となっています宿泊施設の確保については、市の課題であることから、市長部局と連携しながら、適切な対策を協議、検討して下さい。

伝統文化の活用、継承については、各地域の人口減少が進む中、今後においてどのように継承していくかは大きな課題です。そのためには、地域の盛り上がりや人材育成に取り組んでいく必要があります。今後とも各地区の魅力発信や、イベントの周知など、地域おこし協力隊の活用等も図りながら積極的に取り組んで下さい。

人権教育の推進は、重要な課題であり、市長部局や関係団体と連携を深め、積極的に取り組んで下さい。

今後とも、あらゆる機会を通じて、子ども達や保護者をはじめ、地域の方々の声に真摯に耳を傾け、少子化・人口減少社会に対応した教育を推進し、本市の教育理念「ふるさとを愛し、心豊かでたくましく、生きる力を育む教育」の実現にご尽力下さい。

以上、総合評価は『Ｂ』とします。

令和６年７月３１日　　評価者　：　竹　本　俊　之